

## 運輸業界におけるアルコールインターロック 活用場面

点呼の質、運行形態にかかわらず、活用優先の考え方として

車両の大きさによる(25t、20t、10t、4t、2t)

運ぶもの(危険物、タンクローリー等)によっては取り付ける

大量輸送(旅客)の人数によって取り付ける

その他、インターロックは一般的に・・・

所有車(行政機関か、民間企業か)によっては取り付ける

運転する人(二種免許か、一般か)によっては取り付ける

レンタカーに取り付ける

その他、想定される「被害人数」「被害額」によって取り付ける

原子力発電所、危険作業所のオペレーション

11

## アルコールインターロックにおける一般的課題

〈不正始動、運転〉・・・どこまで防げるか？

- 1、友人(未飲酒)がインターロックを解除し、その後本人(飲酒)が運転する。
- 2、風船、空気入れでインターロックを解除し運転する。
- 3、オーバーライド機能を使って始動する。
- 4、押し掛けで始動する。
- 5、スターターリレーを短絡して始動する。
- 6、装置を外して始動する。
- 7、アルコールセンサ部をシーリングして始動する。
- 8、センサ部を外して始動する。
- 9、装置そのものを改造して始動する。
- 10、本人認証不正を行う。  
指紋認証本人で、測定は友人(未飲酒)  
画像はパネルで、測定は友人(未飲酒)
- 11、装置を壊して始動する。

ドライブレコーダーの全方位カメラや、指紋認証、リアルタイム通信など既存の技術の組み合わせでクリアはできる。あとは、コストバランス。

12